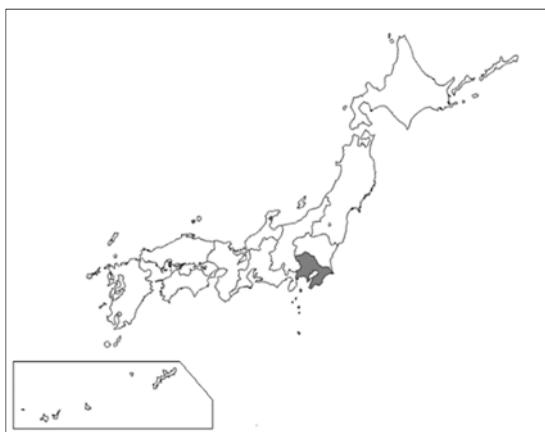


## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

### 前回からの主要変更点

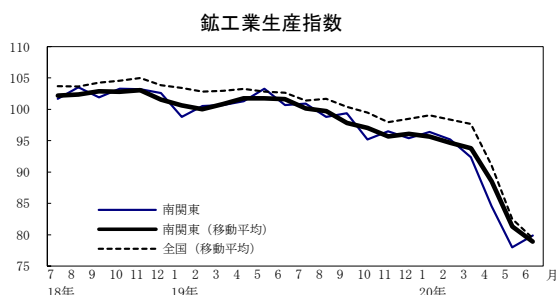
	前回（令和2年5月）	今回（令和2年9月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	↑
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	一部に持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっている	→

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。

4－6月期には、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「輸送機械」は、減少した。

「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、減少した。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。南関東の最新月は速報値。  
 2. 全国及び南関東の大線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。  
 3. 南関東は内閣府にて算出。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.2	▲6.7	▲11.7	▲1.6	▲9.8	▲4.5
輸送機械	14.1	2.0	▲45.2	▲47.2	▲6.1	32.8
汎・生産・業務用機械	13.7	▲0.9	▲8.7	1.9	▲6.8	3.0
電子デバ、電気・情報通信	12.6	▲1.4	▲6.3	▲2.5	▲3.7	▲6.6
食品・たばこ	12.4	5.0	—	▲1.2	▲4.3	—
鉱工業	100.0	▲1.1	▲14.6	▲8.4	▲7.8	2.4

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 4－6月期、6月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直している。

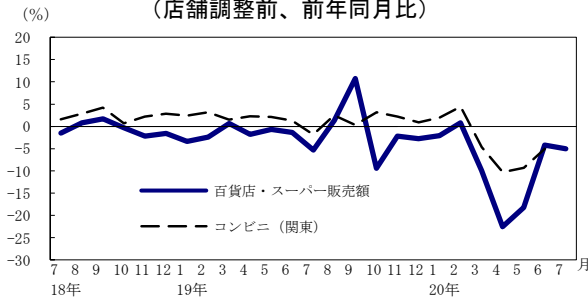
### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比12.5%減、5月は同2.8%減、6月は同10.9%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

緊急事態宣言等に伴う休業や営業時間の短縮が実施されるなか、4月は前年同月比22.5%減、5月は同18.2%減となった。6月は、同4.2%減となったが、緊急事態宣言解除に伴う営業再開等により、減少幅は縮小している。7月は同5.1%減となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年4-6月	2020年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	▲14.7	▲12.5	▲2.8	10.9	—
百貨店・スーパー(*2)	▲14.8	▲22.5	▲18.2	▲4.2	▲5.1
コンビニ(*3)	▲8.2	▲10.3	▲9.3	▲5.0	▲8.3
乗用車(*4)	▲33.3	▲30.9	▲45.4	▲24.6	▲12.9
(季節調整値) (*4)	▲25.1	▲22.0	▲17.6	25.5	20.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2020年7月は速報値。

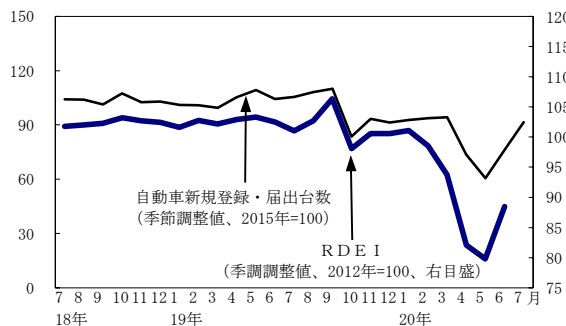
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

2020年7月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段)前年同期(月)比(%)

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

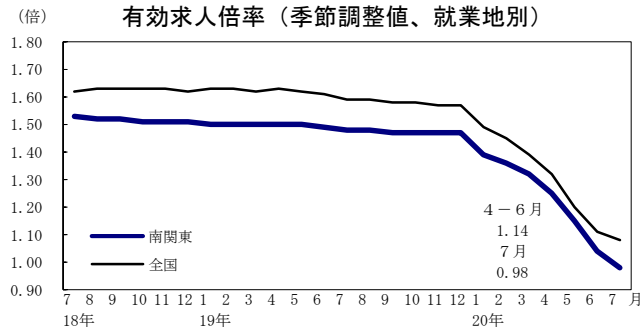


## 3. 雇用情勢

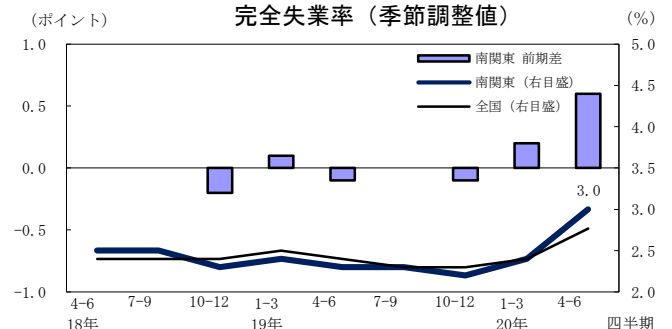
雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



完全失業率 (季節調整値)



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年7月調査) 景気判断理由の概要

4. 南関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	・ 3か月前はちょうど最悪の5月になる手前で、悪くなりかけている状況だった。3か月前は下り始めの7合目、今は上り途上の7合目だが、7合目よりは上がらない。クレジットカードの取扱高からもこの状況が見てとれる。昼と夜の差が激しく、夜の店はかなり厳しい(商店街)。
		・ 7月に入り、新型コロナウイルスと長梅雨の影響を受け、客の動きが弱くなっている。特に、長梅雨はエアコン需要に悪影響を及ぼしている。テレワーク等は引き続きパソコン関連商材の需要を喚起している。また、テレビの需要も回復傾向にある(家電量販店)。
		・ 今月は国内の個人旅行が少し回復してきているので、その分だけ数字も上がっている。Go To Travelキャンペーンも始まったので、その影響もあるかと思っている。他の国内及び海外の団体旅行、個人の海外旅行の厳しい状況は変わっていない(旅行代理店)。
	企業 動向 関連	・ 6月になって少し持ち直したかに見えたが、また絶対的な仕事量が少なくなっている。取引先も暇なので、内製するといって仕事を引き上げられている(出版・印刷・同関連産業)。
		× ・ 受注が前月比でマイナス5ポイント、前年比でマイナス37ポイントと、近年にない落ち幅となっている。自動車関連は回復してきていると聞いているが、まだ中小企業には改善がみられない(精密機械器具製造業)。
雇用 関連	×	・ 新型コロナウイルスの影響で大変な苦境に陥っているなかで、そう簡単には良くなりたくないことをひしひしと感じている(その他製造業[靴])。
	×	・ ボーナス後のため、通常であれば求人募集を行う企業数が増えてくるはずだが、一向に伸びていない(求人情報製作会社)。 ・ 航空会社大手2社の採用中止は、旅行、観光、ホテル業など周辺業界に影響を及ぼしている。採用数が多い業界へ徐々に波及するのではないかと(民間職業紹介機関)。
その他の特徴 コメント		： 新車効果やボーナス月で販売量が増えてきて、復調傾向にある(乗用車販売店)。 ： 新型コロナウイルス感染拡大の影響による訪問営業機会の減少等から、新規契約の獲得件数が伸び悩んでいる(通信会社)。
先行き	家計 動向 関連	判断の理由
		・ 新型コロナウイルスの感染者数が増えてきている。そのためか巣籠り消費で、また家庭内の食事が増えているようである。当社は食品スーパーなので、売上が伸びている。この傾向はしばらく続きそうである(スーパー)。
	企業 動向 関連	・ 閑散期がまだ続くことと、輸出がないため、今後も現状が続く(輸送業)。
		× ・ 年内はほとんどのイベントで中止が決定しており、売上が見込めない(広告代理店)。
	雇用 関連	・ 新型コロナウイルスの影響が続く(職業安定所)。
その他の特徴 コメント		： 新型コロナウイルス感染の第2波が懸念されている。その影響によっては、再び営業縮小若しくは臨時休業になり得る(百貨店)。 ： 新型コロナウイルス感染第2波の影響拡大に伴い、ますます業績が厳しくなるなか、コスト削減による人員削減は継続、拡大する恐れが出てきている(人材派遣会社)。

( D I ) 現状・先行き判断D I (南関東) の推移 (季節調整値)

